

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教科指導	<p>中長期重点目標1「学力の向上を図る」</p> <p>(1) 教員相互の授業参観及び授業公開期間を年2回以上設定するとともに、校外研修にも積極的に参加し、授業改善に努める。</p> <p>(2) 生徒の状況に応じて、補習授業を学期ごとに実施する。</p> <p>(3) 英コミ科において、実用英語技能検定・TOEICなどの受験を促すとともに大学・短大等の合格者を増やす。</p> <p>(4) 応デ科において、デッサン講習会、作品講評会(Aリーグ)、課外授業の充実を図り、より専門性の高い授業内容や指導体制を構築する。</p>	<p>(1) 年2回計5日間の授業公開期間を設定したが、教員相互の授業見学が限定された。また学科を中心に先進校視察を行い、教育課程編成等参考になる事例を職員で共有した。</p> <p>(2) 個別の考査前補習や宿題週間を設定し、提出を徹底させた。提出状況は90%を超えた。</p> <p>(3) 1年生が英検1級に合格するとともに2級以上の合格者も20名(昨年13名)と大幅に増加した。また進路についても生徒の希望をほぼ実現することができた。</p> <p>(4) Aリーグについては1年生で多数の受講者がおり、団体で取り組むことができたが、2・3年生ではコース、学校行事や進学課外により集中することが難しかった。</p>	<p>(1) 公開日に限らず授業内容やレベルについて検討する機会を設けることが望ましい。また応デ科・英コミ科の課題改善のためコース編成の見直しなど学習内容を検討する時期に来ている。</p> <p>(2) 学習習慣が定着しつつあるので、レベルを上げ、思考力を高める学習へと切り替える必要がある。</p> <p>(3) 生徒に資格取得を促し、進路実現につながるよう、学科としての取組が必用である。</p> <p>(4) 日によってAリーグの日と課外の日を分けるなど放課後の使い方とシェアを考える必要がある。また進学課外について、学校の取組として確立する必要がある。</p>
進路指導	<p>中長期重点目標2「系統的進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進」</p> <p>(1) 進路への意識を高めるために、学年別の進路ガイダンスや行内研修等を各学期1回以上実施する。</p> <p>(2) 社会で必要な礼儀やマナーの習得を全職員で指導する。</p> <p>(3) 進学希望者には模擬試験を計画的に実施し、第一志望大学等への合格を目指す。また、就職希望者には3年次に研修会「我究」を実施し、第一志望就職先への内定を目指す。</p>	<p>(1) 学年に応じた進路ガイダンスや講演会を各学期1回以上実施した。</p> <p>(2) 全校集会での講話、職員室への入退室の際のあいさつや服装の指導を行った。</p> <p>(3) 1・2年生には全員対象、3年生には進学希望者を対象とした模擬試験を計画的に実施した。また、就職希望者には研修会「我究」を計画的に実施した。</p>	<p>(1) 進路ガイダンスや講演会により、生徒の意識を高めることができた。生徒の満足度も高く、次の行動を起こすきっかけになっている。今後は、進路ガイダンスや講演会を繋げる取り組みをすることによって、より効果を上げていきたい。</p> <p>(2) 目上の人との正しい話し方、接し方ができる生徒が増えてきた。この指導は続けていきたい。</p> <p>(3) 模擬試験の実施後、その結果をもとにした指導が十分ではなかった。今後は模擬試験の結果をもとにした具体的なアドバイスや補習等をし、その効果を高めたい。3年次の就職希望者の研修会「我究」では、自己理解が深まり、進路実現への一助となった。今後も生徒の実態に合わせて改善を重ね、第一志望先の内定が得られるような力をつけさせたい。</p>

<p style="text-align: center;">生徒指導</p>	<p>中長期重点目標 3 「生徒指導の充実を図る」</p> <p>(1) 生徒指導に関するアンケート、個人面談等を学期に1回以上実施し、問題行動等の早期発見と指導に取り組む。</p> <p>(2) 生徒指導に関わる全校集会を5回以上実施し、全職員共通理解のもと統一した指導を行う。</p> <p>(3) 学年団等と連携したより効果的な指導体制を構築する。</p>	<p>(1) 学期ごとにアンケート・面談を実施することにより問題を早期発見でき、対応できたケースがあった。</p> <p>(2) 年間5回の全校集会を行ったが、分掌主導の性格が強く、整列指導等で担任の負担が大きい。</p> <p>(3) 個々の事例に対しては連携をとることができたが、定期的な生徒指導委員会を開くことができなかった。</p>	<p>(1) 次年度も引き続き実施するが、より効果的なものにするため、3学期の実施時期について検討する。</p> <p>(2) 全職員が共通理解のもと、積極的に指導する体制を整える。</p> <p>(3) 継続的な課題の発見・解決のため、定期的に生徒指導委員会を開き、情報共有を図る。</p>
<p style="text-align: center;">外国人生徒教育 ・特別支援教育 ・人権教育等</p>	<p>中長期重点目標 4 「外国人生徒支援教育等の充実を図る」</p> <p>(1) 外国人生徒の課題や学習状況を把握し、学習意欲や進路意識の向上を促すとともに、日本語能力試験の合格者(N3以上)15人以上を目指す。</p> <p>(2) 日本語支援が必要な生徒対象の支援授業の充実を図る。</p> <p>(3) 支援が必要な生徒の早期把握に努め、全職員情報共有のもと個々の生徒に応じた支援を進める。</p> <p>(4) ホームルーム活動やサークル活動を通して人権教育の活性化を図るとともに教員研修を年2回以上実施する。</p>	<p>(1) 特に必要な生徒に対して、個別面談を行い、課題の把握と解決に努めた。また日本語くらぶを週1回定期的に開き、生徒の自発的な学習の場を確保できた。日本語能力試験に対する本人の意欲とともに保護者の理解もすすみ、N3以上の受験者は年間30名以上になり、目標を上回った。</p> <p>(2) 各考査ごとに支援生徒の学習状況把握に努めたが、支援の各教科同士の情報交換など、横の連携を取るところまでは至らなかった。</p> <p>(3) 全職員での情報共有は半数ほどしかできなかったが、各担任からの情報を把握することにより、個々の生徒に対する支援を行うことができた。</p> <p>(4) 各学年のホームルーム活動で人権教育に取り組んだ。また人権講演会(年2回)や鈴鹿市多文化共生ネットワーク交流会等で人権サークルの生徒が積極的に取り組んだ。</p>	<p>(1) 特に2年生の就職希望者に対して、日本語学習と就労意識を高めるために、国語基礎力テストを受けさせ、成績の分析と個別の学習指導を行った。その結果、各自が自分の実力を把握することができ、意欲的かつ自発的に学習に取り組む姿が見られたが、親クラスの一部の生徒に日本語力が、高校卒業レベルに到達していないという現状が浮かび上がった。日本語力の上達に関しては、未だ十分でない生徒が多くいるという現状を卒業までに改善していく必要がある。日本語能力試験のN3以上の合格者は43名。</p> <p>(2) 支援授業は担当者の工夫や日本語指導等補助員のサポートにより、落ち着いて学習することができた。3年間支援クラスにいる生徒は、日本語理解の自己目標を低く設定する傾向にあり、最終的に高校卒業レベルという高い目標に向けて努力をさせることが今後の課題である。</p> <p>(3) 課題としては発達障がい支援員の来校日と本校の日程を調整しなければならないことがあげられる。</p> <p>(4) 教職員研修の実施が年1回であった。また年間計画の中に人権教育の取組を位置づける必要がある。</p>
	<p>中長期重点目標 5</p> <p>応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流を図り、さらなる質の向上を目指す。</p>	<p>英コミ科3年生が応デ科卒業制作展を鑑賞し、応デ科の生徒が解説を行った。また応デ科の生徒が英コミ科の英語表現演習発表会に参加し、それぞれの成果を共有することができた。</p>	<p>普段の教育活動の中で両科の交流を深める取組が必須である。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況

強み	<ul style="list-style-type: none">○卒業制作展など生徒作品の成果を発表することで、応用デザイン科の認知度が上がり、一定の評価を得ている。○英語コミュニケーション科では、英検の合格者が増えるなど、取組の成果が現れてきている。○教職員が生徒の基本的な生活習慣やマナーを確立するため、粘り強く指導している。
弱み	<ul style="list-style-type: none">○外国人生徒に対するきめ細かな支援体制が、外国人生徒・保護者に安心感を与えているとともに、日本語能力試験の合格者が増えるなど意欲的な生徒が増えてきている。
強み	<ul style="list-style-type: none">○外国人生徒の増加に伴い、日本語や日本の生活習慣が十分に理解できず、進路未決定で卒業する生徒に対する対策が十分でない。○大学進学など生徒・保護者のニーズに応えるための取組が十分でない。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等

<実施回数>		3回	
内容 実施	第1回	7 / 8	学校概要、平成27年度学校経営の改革方針について説明し状況を把握していただく。
	第2回	12 / 8	これまでの取組状況の報告及び現状・課題について意見交換を行った。
	第3回	3 / 17	分掌代表も出席し、今年度の取組、学校自己評価について説明、協議をした。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題

評価 関係者	<ul style="list-style-type: none">○ファッションショーなど全日制の両科の交流が進んでいる点が見受けられる。今後は全日制と定時制の交流についても推進してはどうか。○「いじめ問題」について、教員の校内研修や生徒に対する意識啓発に関する取り組みを推進されたい。○多様な生徒が頑張り、成果をあげているので、自信を持って教育活動に取り組んでほしい。
-----------	--

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

<ul style="list-style-type: none">○センター試験に対応できる学力、基礎学力の向上など、生徒の実態・ニーズに合わせた学力の育成を行う。○1年生の日本語能力の育成および2・3年生の資格取得者を増やし、外国人生徒が卒業後社会的に自立できるよう、外国人支援体制を強化する。○生徒の進路意識の向上をめざし、インターンシップの導入等地域との連携を図り、キャリア教育の充実を図る。○学校行事の中で両科の交流をさらに増やすとともに、生活体験発表会見学など定時制との交流の機会を検討する。
